

Chapter 1 R10の基本操作をマスターしよう 9

Section 01	R10の各部名称を確認しよう 10
	正面・上面の名称
	背面・側面・底面の名称
Section 02	撮影前の準備をしよう 12
	レンズの取り付け/取り外し
	バッテリーを充電して取り付ける
	メモリーカードを挿入して初期化する
	記録画質を設定する
Section 03	ボタンやダイヤルの操作を覚えよう 16
	メニュー画面の操作を覚える
	撮影画面の操作を覚える
	クイック設定を覚える
	クイック設定の項目を編集する
Section 04	ファインダーの操作を覚えよう 20
	視度調整を行う
	画面の表示先を設定する
	ファインダーの表示内容を確認する
	ファインダーの表示内容を設定する
	OVFビューアシストを設定する
Section 05	モニターの操作を覚えよう 24
	モニターの表示内容を覚える
	バリエーション液晶モニターを活用する
Section 06	R10で撮影しよう 26
	シーンインテリジェントオートで撮影する
	タッチシャッターで撮影する
	セルフタイマーで撮影する
Section 07	画像を再生/削除しよう 28
	画像を再生して確認する
	画像を削除する
Section 08	R10の撮影モードを知ろう 30
	撮影モードを設定する
	R10の撮影モード
Section 09	シーンインテリジェントオートで撮影しよう 32
	シーンインテリジェントオートで撮影する
	クリエイティブアシストを使う
Section 10	スペシャルシーンモードで撮影しよう 34
	スペシャルシーンモードで撮影する

スペシャルシーンモードの種類を知る

Section 11	クリエイティブフィルターモードで撮影しよう 36
	クリエイティブフィルターモードで撮影する
	クリエイティブフィルターモードの種類を知る
Column 01	カメラをメンテナンスしよう 38

Chapter 2 ピント合わせの機能を使いこなそう 39

Section 01	ピントを理解しよう 40
	主役にピントを合わせる
	被写界深度を知る
Section 02	フォーカスモードを理解しよう 42
	フォーカスモードを設定する
	AFで撮影する
	MFで撮影する
Section 03	AF動作の種類を知ろう 44
	AF動作を設定する
	ワンショットAFで撮影する
	サーボAFで撮影する
Section 04	AFエリアの種類を知ろう 46
	AFエリアを設定する
	R10で設定できるAFエリア
Section 05	AFフレームを動かしてピントを合わせよう 48
	AFフレームを動かす
	タッチ&ドラッグAFを利用する
Section 06	AF動作とAFエリアを組み合わせよう 50
	ワンショットAFとスポット1点AF
	サーボAFと領域拡大AF
	サーボAFと全域AF
Section 07	フォーカス機能を微調整しよう 52
	サーボAF特性を設定する
	被写体追尾(トラッキング)を設定する
	追尾する被写体の乗り移りを設定する
	人物を中心に追尾する
	動物や乗り物を追尾する
Section 08	瞳検出を設定しよう 58
	瞳検出を設定する
	瞳検出で撮影する

Section 09	MFで撮影しよう	60
	MFでピントを合わせる	
	MFで撮影する	
Column 02	ピントは面で考えよう	62

Chapter 3 露出にこだわって撮影しよう 63

Section 01	露出を理解しよう	64
	絞りと露出の関係	
	シャッタースピードと露出の関係	
	絞りとシャッタースピードを組み合わせる	
	ヒストグラムを使用する	
	標準露出と適正露出の違い	
Section 02	プログラムAEで撮影しよう	68
	プログラムAEに設定する	
	プログラムAEで撮影する	
Section 03	絞り優先AEで撮影しよう	70
	絞り優先AEに設定する	
	絞り優先AEで撮影する	
Section 04	シャッター優先AEで撮影しよう	72
	シャッター優先AEに設定する	
	シャッター優先AEで撮影する	
Section 05	フレキシブルAEで撮影しよう	74
	フレキシブルAEに設定する	
	フレキシブルAEで撮影する	
Section 06	露出補正で明るさを調整しよう	76
	露出補正を設定する	
	露出補正で明るさを調整する	
Section 07	測光モードを使い分けよう	78
	測光モードを設定する	
Section 08	ISO感度を理解しよう	80
	ISO感度を設定する	
	ISO感度を設定して撮影する	
Section 09	ノイズ低減機能を使おう	82
	高感度撮影時のノイズ低減を設定する	
	長秒時露光のノイズ低減を設定する	
Section 10	内蔵ストロボを使おう	84
	内蔵ストロボを使用する	

内蔵ストロボを使って撮影する

Section 11	マニュアル/バルブで撮影しよう	86
	マニュアルに設定する	
	マニュアルで撮影する	
	バルブに設定して撮影する	

Chapter 4 交換レンズを使いこなそう 89

Section 01	交換レンズの基本を知ろう	90
	レンズの構成と各部名称	
	レンズ名の読み方を知る	
	レンズの種類と特徴	
	焦点距離によるレンズの種類を知る	
	ズームの有無によるレンズの種類を知る	
Section 02	標準ズームレンズを使おう	94
	RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM	
	最短撮影距離を覚えて撮る	
	光の状態を見極め背景をボカして撮る	
Section 03	広角ズームレンズを使おう	96
	RF15-30mm F4.5-6.3 IS STM	
	ワイドマクロの撮影	
	ワイド端で被写体をダイナミックにとらえる	
Section 04	望遠ズームレンズを使おう	98
	RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM	
	焦点距離150mmで背景をぼかす	
	圧縮効果で花の色彩を強調する	
Section 05	単焦点レンズを使おう	100
	RF50mm F1.8 STM	
	軽い単焦点レンズは散歩のパートナー	
	マクロを単焦点の中望遠レンズとして使う	
Column 03	撮像素子と35mm判換算	102

Chapter 5 便利な機能を使おう 103

Section 01	ピクチャースタイルを楽しもう	104
	ピクチャースタイルで撮影する	
	ピクチャースタイルを設定する	

Section 02	オートライティングオブティマイザとHDRを使おう	106
	オートライティングオブティマイザを設定する	
	HDRを設定する	
Section 03	高速連続撮影で動く被写体を狙おう	108
	高速連続撮影を設定する	
	高速連続撮影を使って撮影する	
Section 04	レンズの光学補正機能を使おう	110
	レンズ光学補正を設定する	
	レンズ光学補正を設定して撮影する	
Section 05	ホワイトバランスで色合いを変化させよう	112
	ホワイトバランスを設定する	
	ホワイトバランスを利用して撮影する	
Section 06	動画を撮影しよう	114
	動画を設定する	
	動画記録サイズを設定する	
Column 04	バッテリーを節約しよう	116

Chapter 6 シーン別撮影テクニック 117

Section 01	自然の風景を撮影しよう	118
	ピクチャースタイルで表現を工夫する	
	多重露出で写真ならではの表現を楽しむ	
	NDフィルターを装着してスローシャッターで撮影する	
	C-PLフィルターで光の反射をコントロールする	
	望遠レンズで風景の一部を切り取る	
	広角レンズでローアングルから遠近感を強調する	
Section 02	ノイズの少ない夜景写真を撮影しよう	122
	ISO感度を高めて手持ちで撮影する	
	三脚を使用して深い被写界深度で撮影する	
Section 03	AFを生かして動く被写体を撮影しよう	124
	AFの設定を整えて速いシャッタースピードで撮影する	
	動く子どもにピントを合わせ続ける	
	AF設定でペットの瞳にピントを合わせる	
	動くペットを追いかけて撮影する	
	動きが予測できる被写体を待ち構えて撮影する	
Section 04	花をアップで撮影しよう	128
	レンズの望遠域で撮影する	
	ハーフマクロレンズで撮影する	

Section 05	こだわりの小物を撮影しよう	130
	1点AFで主役にピントを合わせる	
	絞り値を開けてボケで雰囲気を作る	
Section 06	ポートレートを撮影しよう	132
	瞳検出をオンにしてノーファインダーで撮影する	
	明るい単焦点レンズで背景をぼかす	
Section 07	夜景とポートレートを組み合わせて撮影しよう	134
	後幕シンクロで撮影する	
Section 08	星空を撮影しよう	136
	カメラの基本設定を整える	
	ソフトフィルターを取り付ける	
	星景写真を撮影する	
	明るい空の中で星を探す	
Section 09	料理を撮影しよう	140
	トップライトと逆光を組み合わせる	
	電球のトップライトで撮影する	
Section 10	旅の記録を撮影しよう	142
	標準ズームレンズで幅広いシーンに対応する	
	単焦点レンズで被写体の一部を切り取る	
Column 05	メモリーカードの種類とスペック	144

Chapter 7 スマホやパソコンと連携しよう 145

Section 01	カメラとスマートフォンを接続しよう	146
	カメラと端末を接続する	
Section 02	写真や動画をスマートフォンに転送しよう	148
	アプリを使って受信する	
	カメラから画像を送信する	
Section 03	スマートフォンをリモコンとして使おう	150
	リモートライブビュー撮影でリモート撮影をする	
	撮影画面の表示内容	
Section 04	スマートフォンでRAW現像をしよう	152
	Camera Connectと連携して画像を取り込む	
Section 05	パソコンに画像を転送しよう	154
	EOS Utilityでパソコンとカメラを接続する	
Section 06	DPPでRAW現像をしよう	156
	DPPをダウンロードする	
	DPPでRAW現像を行う	

Section 07 R10をウェブカメラとして使おう	158
カメラの設定を整える	
R10をウェブカメラとして使用する	
Column 06 ファームウェアをアップデートしよう	160

Chapter 8 使いやすくカスタマイズしよう 161

Section 01 ボタンやダイヤルをカスタマイズしよう	162
ボタンに機能を割り当てる	
ダイヤルに機能を割り当てる	
Section 02 マイメニューを設定しよう	164
マイメニュータブを作成し機能を登録する	
マイメニュータブを削除する	
Section 03 カスタム撮影モードを設定しよう	166
カスタム撮影モードを登録する	
カスタム撮影モードの登録を解除する	
Section 04 水準器とグリッドを表示しよう	168
水準器を表示する	
グリッドを表示する	
Section 05 タッチ操作や電子音を設定して撮影に集中しよう	170
タッチ操作を制御する	
電子音を消す	
●全メニュー紹介	172
●索引	190

ご注意 ※ご購入・ご利用の前に必ずお読み下さい

- 本書はCanon製デジタル一眼レフカメラ「EOS R10」の操作方法を解説したものです。掲載している画面などは初期状態のもので、情報は2023年11月現在のものです、一部の表示内容が変更される場合があります。あらかじめご了承ください。
- 本書に記載された内容は、情報の提供のみを目的としています。したがって、本書を用いた運用は、必ずお客様自身の責任と判断によって行ってください。これらの情報の運用について、技術評論社および筆者はいかなる責任も負いません。

以上の注意点を承諾いただいた上で、本書をご利用願います。これらの注意事項をお読みいただくずにお問い合わせいただいても、技術評論社および筆者は対処しかねます。あらかじめ、ご承知おきください。

■CanonおよびEOS R10、その他、キヤノン製品の名称、サービス名称等は、商標または登録商標です。その他製品等の名称は、一般に各社の商標または登録商標です。

Chapter 1

R10の基本操作をマスターしよう

Section 01 R10の各部名称を確認しよう
Section 02 撮影前の準備をしよう
Section 03 ボタンやダイヤルの操作を覚えよう
Section 04 ファインダーの操作を覚えよう
Section 05 モニターの操作を覚えよう
Section 06 R10で撮影しよう
Section 07 画像を再生／削除しよう
Section 08 R10の撮影モードを知ろう
Section 09 シーンインテリジェントオートで撮影しよう
Section 10 スペシャルシーンモードで撮影しよう
Section 11 クリエイティブフィルターモードで撮影しよう



Section

01

R10の各部名称を確認しよう

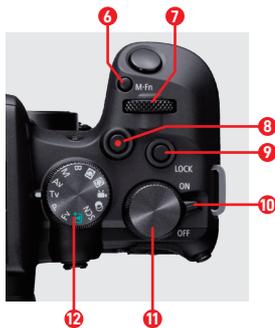
Keyword ボタン／ダイヤル／各部名称

1

R10の基本操作をマスターしよう

カメラの性能を最大限に引き出すためには、まず**カメラのどこにどんなボタンがあり、それぞれどんな機能を有しているのかを把握しよう**。カメラを見なくても操作し、シャッターチャンスにすばやく対応できる、というレベルが理想だ。

1 正面・上面の名称



1	シャッターボタン
2	AF補助光／赤目緩和／セルフタイマー／リモコンランプ
3	絞り込みボタン
4	フォーカスモードスイッチ
5	レンズロック解除ボタン
6	〈M-Fn〉マルチファンクションボタン
7	〈☀〉メイン電子ダイヤル
8	動画撮影ボタン
9	〈LOCK〉マルチ電子ロックボタン
10	〈ON/OFF〉電源スイッチ
11	サブ電子ダイヤル
12	モードダイヤル

2 背面・側面・底面の名称



1	〈MENU〉メニューボタン	11	〈◀/📷/⊞〉左/ドライブモード/セルフタイマー選択ボタン
2	ファインダー接眼部	12	〈⚙〉クイック設定/設定ボタン
3	〈※〉マルチコントローラー(中央押しあり)	13	〈▶〉再生ボタン
4	〈AF〉AFスタートボタン	14	〈R〉リモコン端子
5	〈*〉AEロックボタン	15	〈MIC〉外部マイク入力端子
6	〈☐/Q〉AFフレーム選択/インデックス/拡大/縮小ボタン	16	〈HDMI OUT〉HDMIマイクロ出力端子
7	〈INFO〉インフォボタン	17	〈⇄〉デジタル端子
8	〈▲/ISO〉上/ISO感度設定ボタン	18	カード/バッテリー収納部ふた
9	〈▶/📷〉右/ストロボボタン	19	カード/バッテリー収納部ふたロック
10	〈▼/📷〉下/消去ボタン	20	視度調整レバー
			三脚ねじ穴

まとめ

- ボタンやダイヤルの位置を覚えて、カメラを見なくても正確に操作できるようにする

1

R10の基本操作をマスターしよう

Section

02

撮影前の準備をしよう

Keyword レンズ/バッテリー/SDカード/記録画質

1

R10の基本操作をマスターしよう

R10を購入したら、**撮影前にいくつかの準備が必要**だ。バッテリーの充電や、カメラ本体の初期設定を行おう。なお、別売りの「USB電源アダプター PD-E1」をデジタル端子に接続することで、カメラを操作しながら充電/給電することもできる。

1 レンズの取り付け/取り外し

レンズの取り付け/取り外しは、電源をオフにして行うのが基本だ。電源を入れた状態だと、撮像素子に電気が通り、ゴミが付着しやすくなるためだ。

■ レンズを取り付ける



カメラとレンズのキャップを外し、RFレンズ取り付け指標を合わせながら**1**、レンズをはめ込む。



「カチっ」と音がするまでレンズを回す**2**。これでレンズの装填は完了だ。

■ レンズを取り外す



レンズロック解除ボタンを押しながら**1**、装填とは反対方向にレンズを回す**2**。



RFレンズ取り付け指標が合うところまで回し**3**、レンズを取り外す。取り外した後は、カメラとレンズにキャップを取り付ける。

2 バッテリーを充電して取り付ける

R10は「LP-E17」という大容量バッテリーを採用しており、R50など、**ほかのミラーレスカメラとも互換性がある**。付属のバッテリーチャージャーを使うか、別売りの「USB電源アダプター PD-E1」を使って充電しよう。

■ バッテリーを充電する



付属のバッテリーチャージャーにバッテリーを差し込む**1**。



チャージャーをコンセントに差し込んで充電する**2**。充電中は「CHARGE」のランプがオレンジ色に光り、充電が完了すると「FULL」のランプが緑色に光る。

■ バッテリーの取り付け/取り外し



カード/バッテリー収納部のふたを開き、ツメを避けながら**1**、バッテリーを奥まで差し込む**2**。



バッテリーを取り外すときは、ツメをずらすと**3**、バッテリーが飛び出してくる。

ONE POINT 「充電」と「給電」の違い

R10は、USBケーブルとPD-E1を接続することで「充電」と「給電」を行うことができる。「充電」とは、電源をオフにしてバッテリーに電力を貯めること。「給電」とは、電源オンでも外部バッテリーから電力を供給することだ。カメラによっては「充電」ができて「給電」ができない機種もある。



1

R10の基本操作をマスターしよう

3 メモリーカードを挿入して初期化する

カメラで撮影した画像を保存するには、別売りのメモリーカードが必要だ。R10はSDカードに対応している。カメラにはじめて挿入するカードは初期化して、R10に最適化しよう。

■SDカードを挿入する

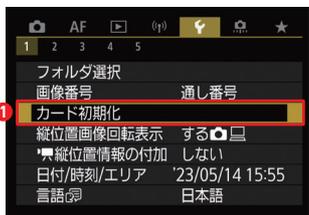


カード/バッテリー収納部ふたロックを引っ張り、カード/バッテリー収納部ふたを開ける①。

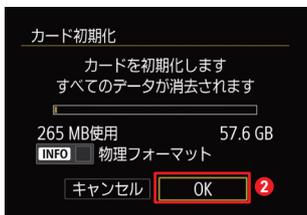


向きに気をつけながらSDカードを差し込む②。「カチッ」と音が鳴れば挿入完了だ。挿入が完了したらカード/バッテリー収納部ふたを閉める。

■SDカードを初期化する



機能設定タブから「カード初期化」を選択する①。



「OK」を選択する②。

4 記録画質を設定する

R10では、RAWデータとJPEG/HEIF画像の画質をそれぞれ設定できる。HEIF画像は、HDR撮影を行う時のみ記録される画像だ。RAWデータは、DPRAWで記録するかどうかを設定できる。なお「DPRAW」とは「デュアルピクセルRAW」のことで、撮像素子からのデュアルピクセル情報が付与された特別なRAWデータのことだ。

■記録画質を設定する



静止画撮影タブから「記録画質」①を選択する。

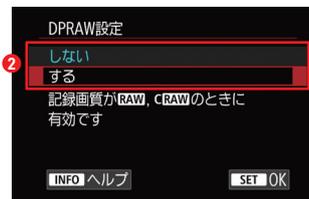


RAW②とJPEG画像/HEIF③を、それぞれ任意の画質に設定する。

■DPRAWを設定する



静止画撮影タブから「DPRAW設定」①を選択する。

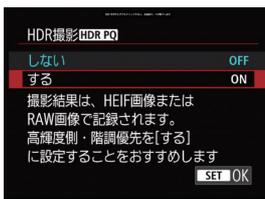


「しない」「する」のどちらかを選択する②。

■R10で設定できる記録画質

RAW	「RAW」「C RAW」の2種類から選ぶ。
JPEG/HEIF	「L」「L」「M」「M」「S1」「S1」「S2」の中から選ぶ。

ONE POINT 新しい画像の規格「HEIF」



HDR撮影時のみ記録される「HEIF」は、2015年から普及し始めた新しい規格だ。JPEGよりも軽ファイル・高画質で記録できるとされている。元々はスマートフォンのカメラで採用されており、キヤノンはEOS-1D X Mark III、EOS R5、EOS R6などで採用している。

まとめ

- 撮影の前に、レンズ、バッテリー、SDカードを準備する
- SDカードは初期化する
- JPEGとRAWそれぞれの記録画質を設定する

Section 03 ボタンやダイヤルの操作を覚えよう

Keyword メイン電子ダイヤル／サブ電子ダイヤル／十字キー

1

R10の基本操作をマスターしよう

実際の撮影では、ボタンやダイヤルを操作して、**カメラの各種設定を整えてから臨む**。メニュー画面の操作の方法、撮影画面での各種設定の整え方など、基本的な操作を覚えておくことで、シャッターチャンス逃さずに撮影できる。

1 メニュー画面の操作を覚える

メニュー画面は、**R10のほとんどの設定を行うことができる画面**だ。各項目は十字キー、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル、クイック設定ボタンを使用して設定する。



メニューボタンを押すと①、メニュー画面が表示される。

メニュー画面は7つのタブに分かれている②。メイン電子ダイヤルを回すか③、十字キーの◀▶を押すと④、タブの切り替えができる。

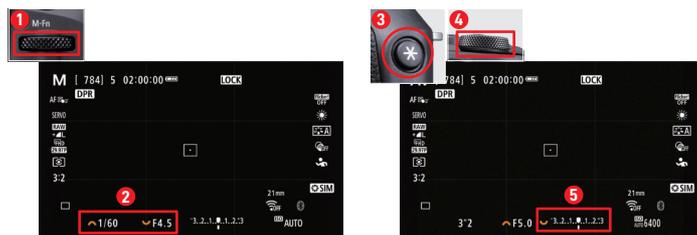


サブ電子ダイヤルを回すか⑤、十字キーの▲▼を押すと⑥、項目を選択できる。

クイック設定ボタンを押すと⑦、選択した項目を設定できる。

2 撮影画面の操作を覚える

R10で操作する回数をもっとも多いのが**撮影画面**だ。絞りやシャッター速度、ISO感度や露出補正など、写真の表現を決める数値は、ボタンとダイヤルを操作して直感的に設定できる。



メイン電子ダイヤルを回すと①、絞りやシャッター速度を変更できる②。変更できる項目は、撮影モードによって異なる。



AEロックボタンを押してから③、サブ電子ダイヤルを回すと④、露出補正を設定できる⑤。



上/ISO感度設定ボタンを押すと⑥、ISO感度を設定できる⑦。



左/ドライブモード/セルフタイマー選択ボタンを押すと⑧、ドライブモードを設定できる。



インフォボタンを押すと⑨、画面表示が切り替わる⑩。



マルチ電子ロックボタンを押すと⑪、サブ電子ダイヤル、マルチコントロール、コントロールリングの設定をロックできる⑫。

1

R10の基本操作をマスターしよう

3 クイック設定を覚える

クイック設定は、AFエリア、AF動作、記録画質など、**撮影に関する基本的な設定にすばやくアクセスできる簡易設定画面**だ。タッチ操作も可能で、メニュー画面を開かずにすぐ設定できる。



クイック設定ボタンを押すと**1**、クイック設定画面が表示される**2**。



画面の左右に設定項目**3**、中央下部に数値やモードが表示される**4**。



十字キーの▲▼を押すか**5**、サブ電子ダイヤルを回して**6**、設定項目を選択する**7**。



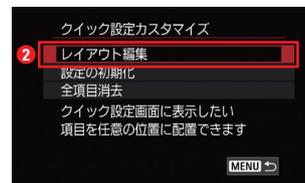
十字キーの◀▶を押すか**8**、メイン電子ダイヤルを回して**9**、数値やモードを変更する**10**。

4 クイック設定の項目を編集する

クイック設定に割り当てる機能は、**メニュー画面から変更することができる**。自身の撮影スタイルや被写体によって、使いやすいようにメニューをカスタマイズしよう。



静止画撮影タブの「クイック設定カスタマイズ」を選択する**1**。



「レイアウト編集」を選択する**2**。



割り当てたい機能を選択し**3**、クイック設定ボタンを押す。各項目の右上にチェックがついていれば**4**、クイック設定に割り当てられている。



インフォボタンを押すと**5**、項目の順番を変更できる。

■ クイック設定に割り当てられる機能

AFエリア	HDRモード
AF動作	RAWバーストモード
記録画質	フォーカスBKT撮影
動画記録サイズ	ドライブモード
測光モード	サイレントシャッター機能
静止画アスペクト比	IS機能
フリッカーレス撮影	オートライティング最適マイザ
ホワイトバランス	ピーキング
ピクチャースタイル	フォーカスガイド
検出する被写体	フォーカス/コントロールリング切換
クリエイティブフィルター	Wi-Fi/Bluetooth接続
HDR撮影 (HDR PQ)	フォルダ選択
高輝度側・階調優先	画像番号
ストロボの発光	モニター／ファインダーの明るさ

まとめ

- R10の撮影はメニュー画面で機能を設定する
- クイック設定は、基本的な設定にすばやくアクセスできる機能
- クイック設定は、割り当てる機能や順番を変更できる

1

R10の基本操作をマスターしよう

Section

04

ファインダーの操作を覚えよう

Keyword ファインダー／視度調整／OVFビューアシスト

1

R10の基本操作をマスターしよう

R10のファインダーは、約236万ドットの**電子ビューファインダー**を採用している。ファインダー倍率は約0.95倍で、肉眼で見た時とほぼ同じ倍率だ。またアイポイントは22mmで、メガネをかけたままでも電子ビューファインダーが起動する。

1 視度調整を行う

ファインダーを使用する前に、ファインダーに写る景色がくっきり見えるように調節しよう。これを**視度調整**という。ファインダーの下にある視度調整レバーを回すことで調整できる。



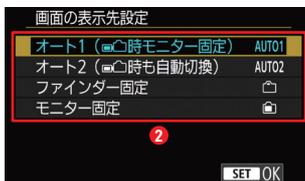
ファインダー下にある視度調整レバーを左右に動かし①、視度調整を行う。ファインダーを覗きながら、もっともはっきり見えるところに調整しよう。

2 画面の表示先を設定する

初期設定ではファインダーオンセンサーが作動し、**顔を近づけることでファインダーとモニターが自動で切り替わる**。メニュー画面から設定することで、画面の表示先を変更できる。



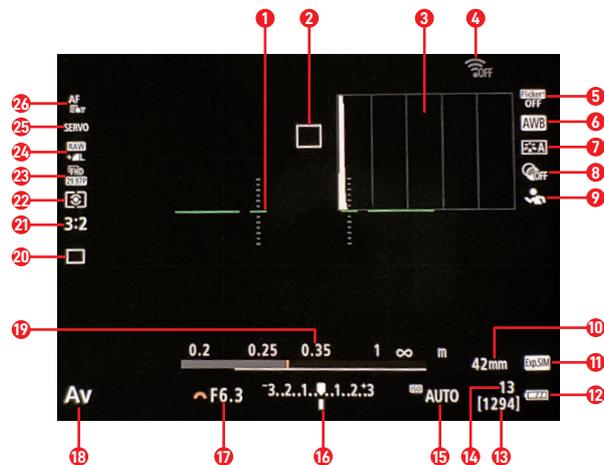
機能設定タブから「画面の表示先設定」を選択する①。



任意のモードを設定する②。「☑️時モニター固定」では、モニターを開いている時は常にモニター表示にする。

3 ファインダーの表示内容を確認する

ファインダーに表示されるアイコンは、撮影時の画像モニター(P.24)と概ね同じだ。ただし表示位置が微妙に異なる。それぞれのアイコンの表示内容と位置を覚え、**現在の撮影設定を把握**できるようにしよう。



① 水準器	⑭ 連続撮影可能枚数
② AFフレーム	⑮ ISO感度
③ ヒストグラム	⑯ 露出レベル表示
④ Wi-Fi機能	⑰ 絞り値
⑤ フリッカーレス撮影	⑱ 撮影モード
⑥ ホワイトバランス/ホワイトバランス補正	⑲ 撮影距離
⑦ ピクチャースタイル	⑳ ドライブモード
⑧ クリエイティブフィルタ	㉑ 静止画アスペクト比
⑨ 検出する被写体	㉒ 測光モード
⑩ 焦点距離	㉓ 動画記録サイズ
⑪ 露出シミュレーション	㉔ 記録画質
⑫ バッテリー残量	㉕ AF動作
⑬ 撮影可能枚数	㉖ AFエリア

1

R10の基本操作をマスターしよう

4 ファインダーの表示内容を設定する

R10のファインダーは、インフォボタンを押すことで**表示内容を変更することができる**。表示内容を少なくして被写体に集中するか、表示内容を多くして設定内容を把握できるようにするか、被写体や撮影スタイルによって使い分けよう。

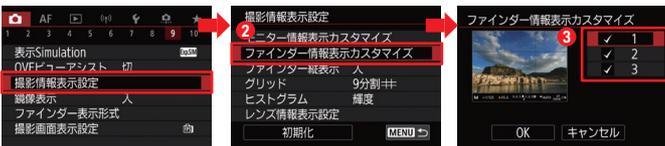
■ 表示内容を変更する



表示内容の変更は、カメラ背面のインフォボタンを押すだけだ^①。R10のファインダーの表示形式は3種類ある。使いやすい表示を選ぼう。



■ 表示されるパターンを選択する



静止画撮影タブから「撮影情報表示設定」を選択する^①。

「ファインダー情報表示カスタマイズ」を選択する^②。

3パターンの中のどの内容を表示するかを選択する^③。

■ 表示項目を変更する



「ファインダー情報表示カスタマイズ」を選択した後にインフォボタンを押すと、ファインダー内に表示する項目を変更することができる。「詳細撮影情報」「ヒストグラム」「水準器」の3項目から選択する。

5 OVFビューアシストを設定する

R10のファインダーには、撮影設定が反映された映像が写し出されている。そのため、肉眼で見ているイメージではなく、撮影される画像に近いイメージになっている。**ファインダー、またはモニターの映像を肉眼で見ているような自然な見え方にするのが、OVFビューアシストだ**。



静止画撮影タブから「OVFビューアシスト」を選択する^①。

「入」を選択すると^②、OVFビューアシストがONになる。

■ OVFビューアシスト「入」でのファインダー表示

一眼レフカメラの光学ファインダーは、撮影設定が反映されず、肉眼で見ているのと同じように被写体の姿を見ることができた。OVFビューアシストは、そうした一眼レフの撮影スタイルをミラーレスカメラでも踏襲するために生まれた機能だ。OVFビューアシストを「入」にしている場合、ファインダーに写っている映像と撮影した画像の仕上がりが異なることになる。



OVFビューアシストは、電子ビューファインダーでも光学ファインダーに近い写りを実現する機能だ。ただし、撮影設定はファインダーやモニターに反映されなくなる。撮影後に必ず画像を確認しよう。

まとめ

- ファインダーの表示内容を覚えてすばやく操作する
- OVFビューアシストで光学ファインダーに近い映りにする

Section

05

モニターの操作を覚えよう

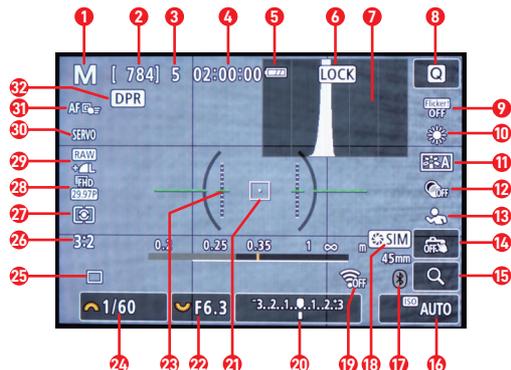
Keyword モニター／バリアングル式液晶モニター

1

R10の基本操作をマスターしよう

R10のモニターは、バリアングル式液晶モニターを採用している。約104万ドットで、ファインダーよりも画質は劣るものの、撮影に支障はないと言えるだろう。ファインダーと同様に、表示されるアイコンの種類や位置を覚えておこう。

1 モニターの表示内容を覚える



1 撮影モード	13 検出する被写体	25 ドライブモード
2 撮影可能枚数	14 タッチシャッター／フォルダ作成	26 静止画アスペクト比
3 連続撮影可能枚数	15 拡大ボタン	27 測光モード
4 動画撮影可能時間	16 ISO感度	28 動画記録サイズ
5 バッテリー残量	17 Bluetooth機能	29 記録画質
6 マルチ電子ロック警告	18 露出シミュレーション	30 AF動作
7 ヒストグラム	19 Wi-Fi機能	31 AFエリア
8 クイック設定ボタン	20 露出レベル表示	32 フォーカスブラケット撮影／HDR撮影／多重露出撮影／マルチショットノイズ低減／バルブタイマー撮影／インターバルタイマー撮影／DPRAW撮影
9 フリッカーレス撮影	21 AFフレーム	
10 ホワイトバランス／ホワイトバランス補正	22 絞り値	
11 ピクチャースタイル	23 水準器	
12 クリエイティブフィルター	24 シャッタースピード	

2 バリアングル式液晶モニターを活用する

R10のバリアングル式液晶モニターは、モニターを引き出して上下方向に動かすことができる。カメラを顔から離して撮影する時や、モニターを180度回転させて自撮りする時などに便利だ。



十字キーの左下にあるツメを引っ張ってモニターを引き出し、180度回転させる①。



上下に回転させる場合は、モニターの上側を手前に引く②。



ハイポジションの場合は画面を下向きに③、ローポジションの時は画面を上向きにすると④、モニターを見ながら撮影できる。



自撮りする場合は、モニターを180度回転させて、画面とレンズを自分に向ける⑤。

まとめ

- モニターの表示内容を覚える
- R10のモニターはバリアングル式液晶モニター
- 自撮りの際には180度回転させて画面とレンズを自分に向ける

1

R10の基本操作をマスターしよう

Section

06

R10で撮影しよう

Keyword モニター／バリアングル式液晶モニター／自分撮り／タッチシャッター

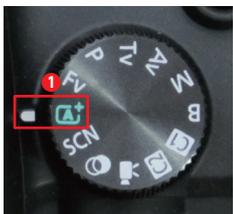
1

R10の基本操作をマスターしよう

機材の用意や設定の準備が整ったら、実際に撮影してみよう。R10は**シーンインテリジェントオートが全自動のオートモード**になり、シャッターボタンを押すだけで撮影できる。まずは写真を撮る楽しさを感じてみよう。

1 シーンインテリジェントオートで撮影する

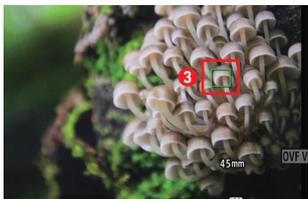
R10は「シーンインテリジェントオート」が全自動の撮影モードになる。モードダイヤルを「A+」に合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影する。



モードダイヤルをA+に合わせる**1**。



ファインダーかモニターを見て、被写体にカメラを向ける**2**。



シャッターボタンを半押しすると、カメラが被写体を自動で検出してピントを合わせる**3**。



シャッターボタンを全押しして撮影する**4**。

2 タッチシャッターで撮影する

R10のモニターはタッチパネルになっており、画面を触ることで設定を整えたりシャッターを切ったりできる。ここではタッチシャッターで撮影する方法について解説する。



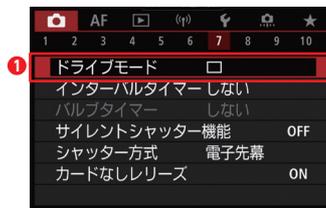
モニター右下の「タッチシャッター」をONにする**1**。



モニター上でピントを合わせたい被写体をタッチすると**2**、AFが作動してピントが合い、シャッターが切られる。

3 セルフタイマーで撮影する

被写体がブレてしまう時や、自分も写真に写りたい時は、セルフタイマーを使おう。セルフタイマーは、シャッターボタンを全押ししてから数秒後に撮影される機能だ。撮影までの秒数は、2秒と10秒のどちらかから選ぶ。



静止画撮影タブから「ドライブモード」を選択する**1**。



「セルフタイマー：10秒」**2**「セルフタイマー：2秒」**3**のどちらかを選択して撮影する。セルフタイマーは、シャッターボタンでもタッチシャッターでも有効だ。

まとめ

- 機材や設定の準備が整ったらまずは撮影してみる
- 「シーンインテリジェントオート」が全自動の撮影モード
- タッチシャッターやセルフタイマーを活用する

1

R10の基本操作をマスターしよう

Section

07

画像を再生／削除しよう

Keyword 再生／削除

1

R10の基本操作をマスターしよう

撮影した画像は再生し、必ず確認しよう。特にピントや構図の**確認は入念に行いたい**。RAW現像を行う場合、露出や色はある程度の調整が効くが、**ピントは調整が効かない**からだ。RAW現像に頼らず、撮影現場で写真を完成させる意識を持とう。

1 画像を再生して確認する

画像の再生は、▶ボタンを押すだけでできる。再生された画像は、**拡大したり一覧表示にしたり**できるので、必要に応じて表示形式を変更しよう。

■ 画像を再生する



カメラ背面にある再生ボタンを押すと**1**、画像が再生される**2**。

十字キーの◀▶を押すと**3**、前後に保存された画像が再生される**4**。

■ 画像を拡大・縮小する



画像を再生した状態で拡大／縮小ボタンを押すと**1**、画像が拡大される**2**。

メイン電子ダイヤルを回すと**3**、画像が拡大／縮小される**4**。

メイン電子ダイヤルを左に回し続けると**5**、画像が一覧表示される**6**。

2 画像を削除する

不要な画像は削除して、メモリーカードの容量を確保しておく。画像の削除は◀ボタン(十字キーの▼)から行う。ただし、撮影中は画像の詳細な確認ができない可能性があるため、**撮影が一段落し、十分な画像の確認ができた後に、不要な画像を削除**するようにしよう。

■ 画像を1コマ削除する



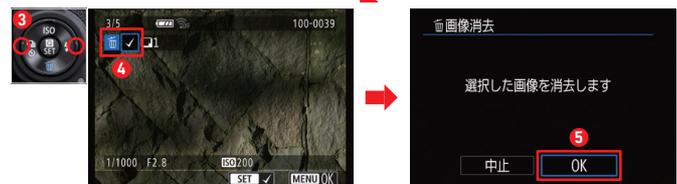
削除する画像を再生し、十字キーの▼を押すと**1**、確認画面が表示される**2**。「消去」を選択すると**3**、画像が削除される。

■ 複数の画像を削除する



再生タブから「画像消去」を選択する**1**。

「選択して消去」を選択する**2**。



十字キーの◀▶で画像を表示し**3**、クイック設定ボタンを押して削除する画像を選択する**4**。

選択し終わったらメニューボタンを押し、「OK」を選択して**5**、画像を削除する。

まとめ

- 再生ボタンを押して画像を再生する
- 画像は拡大／縮小表示したり、一覧表示したりできる
- 不要な画像は削除する

1

R10の基本操作をマスターしよう

Section

08

R10の撮影モードを知ろう

Keyword かんたん撮影ゾーン／応用撮影ゾーン

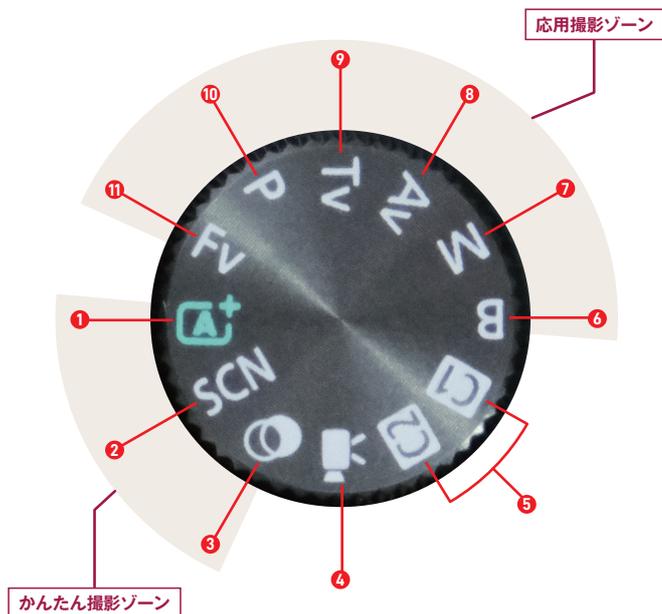
1

R10の基本操作をマスターしよう

R10の撮影モードは、撮影設定をカメラが自動で調整する「**かんたん撮影ゾーン**」と、絞りやシャッタースピードなどを自分で設定できる「**応用撮影ゾーン**」に分かれている。各ゾーンやモードの特徴を覚えて使い分けよう。

1 撮影モードを設定する

R10の撮影モードは、モードダイヤルを回すことで設定できる。各モードの特徴を踏まえて使い分けよう。



①～③がかんたん撮影ゾーン、④～⑪が応用撮影ゾーン。

2 R10の撮影モード

R10の撮影モードは全部で11種類ある。そのうち3種類が「かんたん撮影ゾーン」で、6種類が「応用撮影ゾーン」だ。残りは「カスタム撮影モード」と「動画撮影」という構成になっている。

かんたん撮影ゾーン	① シーンインテリジェントオート	全自動撮影ができるモード。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行う。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせる。
	② スペシャルシーンモード	被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶことで、撮影に適した機能が自動設定されて撮影するモード。
	③ クリエイティブフィルターモード	フィルター効果を付けた画像を撮影するモード。
④ 動画撮影		動画を撮影するモード。アスペクト比や露出などの設定が動画用に切り替わる。
⑤ カスタム撮影モード		撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、カスタム撮影モードとして登録する。
応用撮影ゾーン	⑥ B:長時間露光(バルブ撮影)	絞り値のみを設定し、シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続ける。
	⑦ M:マニュアル露出	シャッタースピード、絞り値、ISO感度など、露出に関する設定を撮影者が決める。ISOオート時は露出補正も設定できる。
	⑧ Av:絞り優先AE	撮影者が絞り値を設定し、カメラがシャッタースピードを自動的に設定する。
	⑨ Tv:シャッター優先AE	撮影者がシャッタースピードを設定し、カメラが絞り値を自動的に設定する。
	⑩ P:プログラムAE撮影	被写体の明るさに応じて、カメラがシャッタースピードと絞りを自動的に設定する。撮影者はシャッタースピードと絞り値の組み合わせを設定できる。
	⑪ Fv:フレキシブルAE撮影	「①シャッタースピード」「②絞り値」「③ISO感度」、①②③それぞれの「オート(自動設定)」と「任意設定」、および「④露出補正」を自由に組み合わせて撮影することができる。

まとめ

- モードダイヤルを回して撮影モードを設定する
- R10の撮影モードは全部で11種類ある

1

R10の基本操作をマスターしよう

Section

09

シーンインテリジェントオートで
撮影しよう

Keyword シーンインテリジェントオート

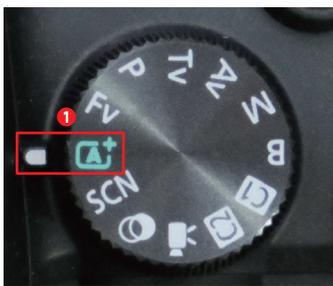
1

R10の基本操作をマスターしよう

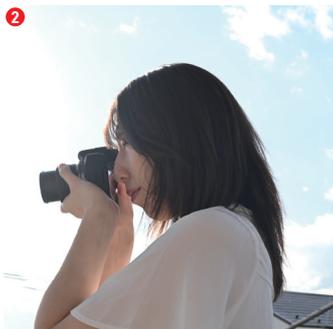
シーンインテリジェントオートは、**カメラがすべての設定を自動で決め、撮影者がシャッターボタンを押すだけで撮影できる撮影モード**だ。また、「クリエイティブアシスト」を使用することで、仕上がりの印象を直感的に変えることができる。

1 シーンインテリジェントオートで撮影する

シーンインテリジェントオートでの撮影は、モードダイヤルを合わせ、レンズを繰り出し、シャッターボタンを押すだけだ。



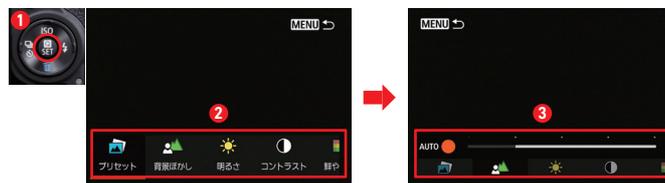
バッテリーとSDカードを装填し、カメラの電源を入れ、モードダイヤルをシーンインテリジェントオートに合わせる**①**。



準備が完了したら、カメラを被写体に向けシャッターボタンを押す**②**。これで撮影は完了だ。

2 クリエイティブアシストを使う

シーンインテリジェントオートは全自動で撮影できるが、自分のイメージ通りの写真に仕上がっていないことも多い。そういった場合に有効なのが「クリエイティブアシスト」だ。「背景ぼかし」「明るさ」など、仕上がりの印象を直感的に変えることができる。



撮影画面でクイック設定ボタンを押すと**①**、画面下部にクリエイティブアシストのモードが表示される**②**。十字キーの◀▶でカーソルを移動させ、クイック設定ボタンで任意のモードを選択する。

効果の度合いを調整するスライダーが表示されるので**③**、十字キーの◀▶で調整する。

■ クリエイティブアシスト一覧

プリセット	「VIVID」「SOFT」など、用意された効果の中から選ぶ。[B&W]を設定した時は、[鮮やかさ][色あい1][色あい2]は選べない。
背景ぼかし	背景のボケ具合を設定する。設定値が大きいほど背景がくっきりし、設定値が小さいほど背景がぼけた画像になる。[オート]に設定すると、明るさに応じて背景のボケ具合が変わる。
明るさ	画像の明るさを設定する。
コントラスト	コントラスト(明暗差)の強さを設定する。
鮮やかさ	色の鮮やかさを設定する。
色あい1	アンバーとブルーの色あいを設定する。
色あい2	グリーンとマゼンタの色あいを設定する。
モノクロ	モノクロで撮影するときの色調を設定する。

まとめ

- シーンインテリジェントオートでかんたんに撮影する
- クリエイティブアシストで仕上がりを設定する

1

R10の基本操作をマスターしよう

Section 10 スペシャルシーンモードで撮影しよう

Keyword スペシャルシーンモード

1

スペシャルシーンモードは、ポートレート、風景など、**選択したシーンに応じて自動で撮影できるモード**だ。クイック設定があり、AFエリアの大きさや位置を変えることができるなど、シーンインテリジェントオートよりも設定項目が増えている。

1 スペシャルシーンモードで撮影する

スペシャルシーンモードは、モードダイヤルから設定する。任意のモードを設定できたら、あとは撮影するだけだ。



モードダイヤルをスペシャルシーンモードに合わせる**1**。



スペシャルシーン

クイック設定ボタンを押して**2**、クイック設定を表示し、「スペシャルシーン」を選択する**3**。



任意のモードを選択して撮影する**4**。

2 スペシャルシーンモードの種類を知る

スペシャルシーンモードで設定できるモードは15種類ある。「スポーツ」や「流し撮り」など、上級者向けのテクニックが必要なシーンも選択できる。撮影シーンに応じて使い分けよう。

自分撮り	画像処理によって肌がなめらかに見えるよう美肌の効果をかける。また、明るさや背景を自分好みに設定し、自分が浮き立つような画像にする。
ポートレート	背景をぼかして、人物を浮き立たせた写真を撮る。肌や髪の毛の質感が柔らかな写真になる。
美肌	人物の肌をきれいに写す。画像処理によって肌がなめらかに見えるような効果をかける。
集合写真	手前から奥の人物まで、ピントが合った写真を撮ることができる。
風景	近くから遠くまでピントの合った写真を撮る。空や緑が鮮やかで、くっきりした写真になる。
パノラマショット	シャッターボタンを全押ししたままカメラを一定の方向に動かして撮影し、連続撮影した画像を合成してパノラマ画像を作成する。
スポーツ	シャッター速度を速め、動いている被写体を正確に撮影する。
キッズ	シャッター速度を速め、AFサーボで被写体を追い、動きの予測できない被写体を撮影する。また、肌色も健康的になる。
流し撮り	被写体の背景が流れるような、スピード感のある写真を撮影できる。
クローズアップ	花や小物などに近づいて大きく写す。
料理	明るく、おいしそうな色あいの写真になる。また、白熱電球下などで撮影する時は、光源による赤みを抑えた写真になる。
夜景ポートレート	人物と、その背景にある夜景を明るくきれいに写す。撮影には内蔵ストロボまたは外部ストロボが必要。
手持ち夜景	1回の撮影で4枚連続撮影し、手ブレを抑えた画像が1枚記録される。
HDR逆光補正	明るいところと暗いところが混在する逆光シーンで、1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が1枚記録される。
サイレントシャッター	シャッター音や電子音を鳴らさずに写真を撮る。

まとめ

- スペシャルシーンモードは、シーンを選んでフルオートで撮影するモード
- R10のスペシャルシーンモードは15種類ある

1

R10の基本操作をマスターしよう

Section 11 クリエイティブフィルターモードで撮影しよう

Keyword クリエイティブフィルターモード

1

クリエイティブフィルターモードは、ラフモノクロ、トイカメラ風など、フィルター効果を付けた画像を撮影するモードだ。通常の写真ではなく、エフェクトを加えて一風変わった印象の写真を撮影できる。

1 クリエイティブフィルターモードで撮影する

クリエイティブフィルターモードは、モードダイヤルから設定する。フィルター効果は、クイック設定画面から選択する。



モードダイヤルをクリエイティブフィルターモードに合わせる①。



クイック設定ボタンを押して②、クイック設定を表示し、「クリエイティブフィルター」を選択する③。



任意のモードを選択する④。



クイック設定画面に戻り、「フィルター効果の強さ」にカーソルを合わせ⑤、◀▶またはメイン電子ダイヤルを回して、効果の度合いを設定する⑥。

2 クリエイティブフィルターの種類を知る

クリエイティブフィルターモードで設定できるモードは、10種類ある。写真の仕上がりが劇的に変わるため、自分のイメージに合うフィルターを選ぼう。

ラフモノクロ	ざらついた感じの白黒写真になる。コントラストを調整することで、白黒の印象を変えることができる。
ソフトフォーカス	やわらかい雰囲気の写真になる。ぼかし具合を調整することで、印象を変えることができる。
魚眼風	魚眼レンズで撮影したように、タル型にゆがんだ写真になる。フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わる。
水彩風	水彩画のように、やわらかい色の写真になる。効果を調整することで、色の濃度を変えることができる。
トイカメラ風	トイカメラで撮影したような独特の色調に仕上がりと、画面の四隅が暗い写真になる。
ジオラマ風	画面の上下にぼけ効果が乗り、被写界深度が浅くなっているように見せることで、ジオラマ(ミニチュア模型)風の写真になる。ジオラマ枠とAFフレームは移動させることができる。
HDR絵画調標準	白とびや黒つぶれが緩和された写真になる。コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになる。
HDRグラフィック調	「HDR絵画調標準」よりも鮮やかで、コントラストを抑えたグラフィックアートのような仕上がりになる。
HDR油彩調	鮮やかで被写体の立体感が強調された、油絵のような仕上がりになる。
HDRビンテージ調	鮮やかさ、明るさ、コントラストを抑えたフラットな階調に仕上げ、色あせた古めかしい雰囲気の写真になる。

まとめ

- クリエイティブフィルターモードは、写真にエフェクトを加えて印象を変えるモード
- R10のクリエイティブフィルターモードは10種類ある

1

R10の基本操作をマスターしよう

カメラをメンテナンスしよう

風が吹いている屋外で撮影したり、屋内でもホコリが舞う中で撮影したりすれば、カメラには汚れが附着する。特にレンズ球面、カメラとレンズの接合部、カメラの撮像素子などは、常に清潔に保ちたい部分だ。レンズ球面や撮像素子にゴミが附着していると、撮影した際に画像の中にゴミが写り込んでしまう。レンズの接合部にゴミがあれば、レンズとカメラがうまく連携できずにAFが作動しないなどのトラブルが起こる可能性がある。ブローヤークロス、専用の洗浄液を使って、丁寧にメンテナンスしよう。



メンテナンスに欠かせない道具がブローヤ。シリコン部分を握ることで空気を噴出し、ホコリを飛ばす。ただし勢いよく握りすぎると、風圧が強くなりカメラを傷つけてしまうので、優しく噴射しよう。



撮像素子、レンズ接合部、レンズ球面にブローヤをかける際は、必ずカメラを下に向ける。ブローヤで吹きかけたホコリが、再び落ちてしまえば意味がないからだ。



ブローヤで取りきれないゴミは、クロスを使って拭き取る。メガネ拭きなど繊維が細かいものがよい。ティッシュは繊維が粗く、傷つけてしまうためNGだ。

ピント合わせの機能を使いこなそう

Section 01 ピントを理解しよう

Section 02 フォーカスモードを理解しよう

Section 03 AF動作の種類を知ろう

Section 04 AFエリアの種類を知ろう

Section 05 AFフレームを動かしてピントを合わせよう

Section 06 AF動作とAFエリアを組み合わせよう

Section 07 フォーカス機能を微調整しよう

Section 08 瞳検出を設定しよう

Section 09 MFで撮影しよう

